

第 8 回 仙台市総合計画審議会議事概要

この議事概要は、事務局の責任においてとりまとめた速報であり、事後に修正する可能性があります。なお、正式な議事録については、別途ホームページに掲載しますので、そちらをご覧ください。

日 時	平成22年12月27日（月） 16：00～18：00
会 場	仙台市役所 2 階 第一委員会室
出席委員	足立委員、阿部一彦委員、石川委員、内田委員、江成委員、大草委員、大滝委員、大村委員、岡本委員、菊地委員、小松委員、鈴木由美委員、高野委員、西大立目委員、西澤委員、庭野委員、針生委員、樋口委員、増田委員、間庭委員、水野委員、宮原委員〔22名〕
欠席委員	阿部初子委員、小野田委員、佐竹委員、菅井委員、鈴木勇治委員、永井委員、柳生委員、柳井委員〔8名〕
仙 台 市	企画調整局長、企画調整局次長、総合政策部参事、総合計画課長、総合計画課主幹(3)、青葉区役所区民部長、宮城野区役所区民部参事、若林区役所副区長、太白区役所副区長、泉区役所区民部長
次 第	1 開会 2 議事 (1) 仙台市基本構想・基本計画（答申）素案について (2) その他 3 閉会
配 付 資 料	1 仙台市基本構想・基本計画（答申）素案 2 答申素案と中間案・修正概要案との比較表 3 市民意見の分類と対応

会議の概要

議事

(1) 仙台市基本構想・基本計画（答申）素案について

・事務局から資料1、資料2を基に説明し、その後意見交換を行った。

< 主な意見等 >

・郊外の住宅地もそのままできるだけ維持していきたいというスタンスで書かれているが、住生活基本計画検討委員会では、郊外住宅地の高齢の方々を街の方に入れながら、若い方々に郊外団地に住み替えていただくという素案をつくっている。住生活基本計画ともこれから調整があるのか。

住生活基本計画については総合計画課も審議に参加しながら調整を行っている。機能集約型都市づくりが市の大きな柱で、住生活基本計画の検討委員会でも住み替え等についていろいろと議論いただいており、その点では基本計画との相違はない。ただ、区別意

見交換会等において、集約を図る一方、郊外区域等で買物、医療や地域の足の確保などの問題が発生しているという指摘もあり、地域で暮らす市民の生活環境の維持改善への取組も大きな課題となっている。そういう地域にも可能な対策をすべきだという意見を踏まえて、このような記載になっている。

- ・資料1の10ページの(2)は、児童虐待の場合、多様な体験・遊び場づくりとなる前に社会生活に必要な環境の整備が関わってくるので、社会性を身に付けるための環境の整備であるとか、生活の基本を身に付けるような支援といった記載をしてほしい。
- ・資料1の49ページの「セルフヘルプ活動」や「ピアカウンセリング」など大事なことが指摘されているが、可能であれば「ピアカウンセリング」の前に「ピアサポート」という文言があると、当事者の人たちが様々なことで役割を持ちやすいのではないかと。
- ・資料1の38ページの2行目で、「地域団体や学校などとの連携により防災意識を醸成しながら、女性や若者、高齢者などの対象者ごとに工夫して」とあるが、他のところでは高齢者と障害者があり、障害の特性によって様々な工夫があるので、ここにも「障害者」という言葉があると分かりやすいと思う。
- ・資料1の63ページの記述の中で「東西都市軸における」とあるが、どこをイメージしているのか。

一つは、現在検討に入っている仙台商業跡地のコンベンション規模の施設整備を示している。もう一つは、この計画期間中に東西都市軸が完成し、複数の大学や、動物園、東部の海岸といった各種の仙台の魅力、さらには卸町、印刷団地や中央部の商店街といったものを新たにつなぐ形になるので、仙台駅を中心として遠方との交流が図られるとともに、仙台の都市機能にアクセスしやすくなるということを念頭に記載している。

- ・宮城、山形の横の都市軸と思ったのだが、今の説明のように仙台市内の機能であれば、ここでないところで記述すべき。むしろ東北各地域と政策交流も進んでいるので、東北の横軸連携をしっかりと記載する方が良い。
- ・資料1の63ページに「世界につながる都市づくり」があるが、特に留学生のような方々が、学びだけではなく、例えば事業を始めるとか、もっと交流するなど、まちの活性化に寄与することをもっと強く打ち出すべき。都市の個性を伸ばす仙台の魅力づくりのところで、留学生を始めとする外から来た人達が仙台の活性化に寄与するという、人づくりや留学生の在り様をもう少しはっきりだしたほうが良い。
- ・青葉山サイエンスパークに企業を誘致する話があるが、国内だけではなく、むしろ海外から企業を引っ張ってくるということを意識して、具体的なことを書いた方が良い。どこに入れれば良いか悩ましいところがあり、留学生を始めとする外国人の皆様に対する施策は様々なところで記述している。留学生と連携を高めたいということについては、資料1の43ページの最後の丸に記載している。こういった方々の就職や企業誘致も非常に大きな課題と思っており、青葉山のサイエンスパークを始め、様々なところに記載している。ご指摘について対応が可能かどうか検討したいが、分野別計画でも余り重複しないようにするため、どこに記載するかは事務局としても悩みとなっている。
- ・そのことに関しては、ばらばらにやったのでは意味がないので、各分野が協力して一つの成果を上げる取組として運用するものがあると良い。

- ・紙の報告書で前後を交互に見ることは大変なので、余力があれば、キーワードに相互リンクを張るとか、後ろに索引を付けるとか、あるいは都市計画マスタープランや住生活基本計画などの基本計画のキーワードに索引を付け、それぞれの個別計画でどのように関係しているかなど、相互が見えるような試みをやっていただきたい。
- ・人口予測について、10月に実施した国勢調査の結果が年度明けに出るということだが、どういうところが変わりそうだとか、もっとこれが進行しそうだというものがあれば、方向性を教えてほしい。

国勢調査の速報値は、宮城県から1月中旬頃に数値が出る。市町村では再統計や再集計はしておらず、基本的なデータを取りまとめて県に提出し、県単位でいったん取りまとめて、国で最後の速報を出す構造になっている。したがって、総計は市で把握していない。1月中旬には宮城県から速報で市に情報提供が来るので、その情報を基に推計作業をやり直す予定となっている。

- ・今回、回収率が下がっていて、やや数字が疑わしいところがあるというコメントを聞いており、そこも確認いただき、修正できる部分があればしていただきたい。
- ・資料1の2ページの都市像の記述では「芸術・スポーツなど」となっているが、15ページの(2)の導入文では、それが逆転して「スポーツ・文化芸術など」となっており、その部分の では「スポーツ・芸術文化、」となっているので、できればそろえた方が良い。また、15ページの4の導入文に「学術・歴史・文化・スポーツ」とあるが、できればこれまでの流れから「芸術」を入れた方が良い。
- ・資料1の26ページの体系図のうち3番目「個性を育む豊かな都市文化づくり」のタイトルは、中身を見るとスポーツ振興と芸術振興だけを取り上げているので、内容が分かるようなタイトルにすべき。また、順番については、2ページに挙げたとおりにそろえるのであれば、芸術、スポーツの順番で良いと思う。
- ・資料1の30ページの「指導補助員」については、文科省としては「特別支援教育支援員」が正式名称となっており、一般的に使うのであれば「支援員」という言葉を使うか、あるいは併記するなど、仙台市外の方が読んでも分かるような書き方をした方が良い。
- ・資料1の90ページの「仙台89ERS」、98ページの「ベガルタ仙台」について、固有名称が出てくることは良いが、何のスポーツのチームなのかを一言書いた方が良いのではないかな。

いただいたご意見を検討して最終的な表記に生かしていきたい。

- ・「資源循環都市」が使われており、これはこれで良いとは思いますが、これまでは、「資源循環型都市」という言い方が一般的だったと思う。私の印象では、「資源循環都市」というと、資源循環をまちの中心産業のように位置付けている、例えば北九州市のような印象があるが、その辺はどう考えているか。

同時期に検討を進めている杜の都の環境プランで、これまで資源循環型都市だったものを低炭素都市、あるいは資源循環都市という言い方に切り替えている。「…づくりの推進」ということなので、これから仙台でもそういった面を進めていきたいという環境プランの考え方があり、それを踏まえて総合計画でも同様の表記に修正を図った。

- ・資料1の30ページの(2) に「健やかな体の育成に向けて、バランスよく食べる食習慣、

体力向上につながる運動習慣、規則正しい生活習慣の確立に向けた総合的な取り組みを進めます。」とあるが、「規則正しい生活習慣を身につけましょう」より過去に行っていた「早寝・早起き・朝ごはん・あいさつ」運動はフレーズとしてやるべきことが非常に分かりやすいと思ったので、総合計画でふれるかは別にして、検討していただきたい。

- ・資料1の44ページの下から5行目に、「児童クラブ等において、職員のスキルアップ」とあるが、児童クラブ等の子供の施設でやるべきことを言っているのか、障害児に対する支援ということを言いたいのか分かりにくい。障害児に対するケアということであれば、冒頭に「障害児に対する支援として」というものが必要だと思う。
- ・資料1の45ページの真ん中に、企業に対する育児支援制度で「男性の育児参加」が入っているが、男性に育児参加をさせることが主というよりは、男性も女性も共に働き方を見直すということを企業に訴えかけることが必要と思っているので、ワーク・ライフ・バランスという言葉が当てはまるのではないか。
- ・資料2の20ページの「多様な学びの拠点の充実」について、ここだけ具体的に施設ごとに取組の紹介があるが、全体の構成を見た場合に、ここまで具体的な表記が必要なのか。目的別にもう少し整理しても良いと思う。

個別の施設の話については、現在、図書館整備計画等での個別計画の進行を踏まえ、記載の充実を図った。また、表記についての指摘で、片仮名の使い方については悩むところであり、こういった表記が適当なのかも、担当部局とも相談しながら詰めてきた経過があるが、ご指摘を踏まえて最終案に向けて検討する。

- ・用語の説明は付くのか。いくつか専門用語が出てくるので、最後に付けてほしい。
議案では、他都市でも用語解説まで出ていないことが多いので、片仮名語の使用など最終案に向けこういった表記にするか検討していきたい。ただ、市民に配布するものについては、用語集などを付記して分かりやすくするように努めていく。
- ・今回の総合計画の産業振興の面を見ると、クリエイティブ産業やミュージアム都市といったキーワードがあり、仙台は魅力的なクリエイティブ都市をつくっていく上で素材に恵まれていることを最初からうたっているので、資料1の65ページの の説明で、印刷、デザイン、IT、コンテンツ産業をクリエイティブ産業とするとやや限定的過ぎるのではないかと思う。市民に分かりやすく説明するときに、やはり創造都市とか、クリエイティブ産業についてしっかり説明してほしいと思うし、そのことをうまく市民に伝えていくということは今回の総合計画では非常に大事だと思う。
- ・資料1の2ページの都市像「未来を育み創造する学びの都」の四点目について、「芸術・スポーツなどの創造的な」とあるが、仙台は歴史的にも世界に認められた有名な科学や技術が生まれた都市なので、科学という要素が重要なのではないかと思う。
科学については、知的資源の集積が学都の中で非常に大きな位置を占めていたことから、同じ都市像の2番目の中に思いとして詰めたつもりだった。限られた分量の中で何もかも入れることが難しかった。全体の見直しの中で何か付け加えられるものがあれば、検討していきたいと思う。
- ・クリエイティブ産業の考え方として、一つはクリエイティブということ自体を産業化するという考え方があり、もう一つは、従来型のビジネスにクリエイティブな要素を入れ

ていくことによって、その従来型のビジネスが発展していくと流れがあると思う。資料 1 の16ページの記述も、クリエイティブ産業の活性化ということと、既存産業のクリエイティブ化という両方の記述があった方が良い。

- ・資料 1 の15ページの(1) の農業の活性化について、「六次産業化」、あるいは「農商工連携の推進」という言葉は入っているが、どちらかという一次産品の部分に偏っている感じがしており、食品の加工製造やレストランなど、食に関わる産業、いわゆる「アグリビジネス」全般を活性化するというような書き方が良いと感じる。
 - ・資料 1 の106ページの3で、「各年度、各局・区と調整しながら」という言葉に包含されていると思うが、調整という枠組みの中で、個別計画ごとに5～7月に評価を行い、総合計画もまた同じような評価をするということで、この時期に様々な評価が重なり、果たしてきちんとした評価ができるのかという疑問がある。4にある市民協働による評価は反対ではないが、総合計画の評価は3年に1回行うといったことも考えられる。各局の計画との調整を具体的に書き込む必要があるかもしれない。
- 総合計画については市民意見や市議会から、財政的な制約が高まる中で、絵に描いたもちにならないようにしっかりと進行管理をやるべきという意見をいただいております、一方で事務量が膨大ではできないので、それらを調整した上で、こういう形であれば作業を進められるという判断で組んだ運用の案を示している。個別計画との関係については、可能な限り効率的に評価ができるように、各局と十分に調整していきたい。
- ・資料 1 の18ページの最後に書かれている「実効性の高い市民協働を推進していくための制度を整えます」という言葉を使っているが、何かイメージされているものがあるか確認したい。

先日、仙台市市民公益活動促進委員会から、どんなものにするかは明記せず、実効性を担保するための制度をきっちりと打ち出すべきとの中間取りまとめをいただいた。現時点ではそういったものを踏まえ、「制度」という言葉で入れさせていただいている。

- ・協働という言葉について「パートナーシップ」という意味合いで使っているという気がするが、その他に「コラボレーション」という意味合いもある。計画の中で、この文言についてどのような考えで使っているか他の委員の考えを聞いておきたい。
- ・世田谷で冒険遊び場というのを地域の人たちと行ったときに、始めは全てポケットマネーでやっていたが、それを行政もお金を出すという形になって、それでボランティアと行政とで一緒になって仕事をするような仕組みができた。そのとき初めて、こういうのは「コラボレーション」と言うのだと教えられた。
- ・今の話を伺っても、市民が問題に気付いて、それを主体的に解決していくための一つの方法としての協働という意味合いがあると思う。これは「コラボレーション」というふうに理解しているが、行政の協働というのは、大体「パートナーシップ」的に書かれていると思う。
- ・「パートナーシップ」というのは言い方としては、官民のそれぞれがお互いの役割分担をしながら共通目標を達成していくという話だと思う。「コラボレーション」というのは、お互いが異質なものをぶつけ合った上で共通の目標を設定しながら、新しいものをつくりだしていくというイメージがある。それぞれの学問の分野で使い分けがあるので、

「パートナーシップ」が悪くて「コラボレーション」が良いなどといった話ではない。ただ、経営学の世界でも、最近「コラボレーション」という言葉を使うことが多い。これは能動的、積極的な意味合いをその言葉の中に込めているのだと思う。

- ・資料1の64ページから66ページまでに地域経済の活力づくりということで、地域商店街についての記載があるが、最近の地域商店街はシャッター通りがほとんどで、これは簡単には直らないと思う。今、高齢者が歩いていけるところに商店街がないということで、だいぶ苦しんでいる人が多い状況になっており、これは仙台市の行政の中で相当大きな問題だと思う。きちんと表現しながら実際に対応していく必要がある。

今のご指摘は、区民意見交換会等でもご意見を多くいただいている。市としても、地域の商店街について、できるだけ活力を発揮していただけるように支援していきたいということで、64ページ以下に記載している。指摘いただいた点についても、例えば58ページで、郊外区域でそのような課題が多く発生しているので、コミュニティの機能維持に取り組むということも打ち出している。また、例えば18ページのコミュニティビジネス、20ページの地域づくり・地域政策というようなところでも記載をしている。絶対的な特効薬がある分野ではないので、これらのことを組み合わせながら、ご指摘の点にしっかり応えていくということをお示ししている。

- ・農業の多面的機能や農林業の活性化について、様々な場所に記載されており良かったと思っているが、その中で六次産業化あるいは農商工連携がこれから農業の振興には大事だと考えている。米や麦や野菜はある面では原料だが、これを商工業の力を借りて、アグリビジネスといったことを仙台はやるべきではないかと思う。ねぎや長なすなどの単品だけではなく、それを加工してこういうものができたといったような、物語風の仙台ブランドづくりというような表現を入れていただきたい。
- ・できればそれぞれの項目に関連する図表を付けられないか。でき上がった基本構想・基本計画を市民が読んで、理解し、そして一緒にまちづくりするところに行けるかどうか気になっている。少なくとも、見やすくすれば、現状を目で見て理解いただき、こういうまちづくりをしていくということが理解してもらえるのではないかな。冊子の分量の問題もあると思うが、できるだけ市民の人たちに受け止めてもらえるような工夫をしてほしい。

今回は市民と共に協働で、そして知恵を生かし、学びを充実して明るいまちをつかっていきたいということなので、分かりやすいものにしたいとは考えている。ただし、作業時間の問題もあり、図表系も含めてどういうものをつくるかは同時進行で考えていきたい。当面は議案ということで、文章中心にならざるを得ないが、ご意見の主旨を踏まえて検討する。

- ・前回の21プランと今回の素案は図が都市計画のところでは3枚と各区分ぐらいしかないという構成になっているが、その前の仙台市総合計画2000はもっと様々なデータが載っていたと記憶している。このあたりは計画書のもつ性格が反映されると思う。議会の議決のための文章であるという位置付けでこのような形にしていると思うので、これを読む市民の会などを立ち上げる方が賢明ではないかと思う。
- ・資料1の泉区の区別計画の101ページに「マンション単位の町内会の形成促進などにより、

地域コミュニティ活動を支援します」という項目があるが、仙台市で十数万人の分譲マンションの人口がいて、泉区だけではなく都心部や若林区などもまだ増えている状況にある中で、マンションのコミュニティにふれているのが泉区だけというのは寂しい気がする。もしできれば何らかの形で入れていただきたい。

ご指摘の点については市全体として非常に大きなテーマなので、19ページの地域づくりの(1)の二つ目の丸に「マンション等の集合住宅における町内会の形成や担い手の育成を支援」といったような記述で対応してしたいと考えている。当然、泉区に限らず、都心地区や機能集約の地区におけるマンションというものが増え、こういった状況がますます重要になってくると思うので、全市的に、区とも連携しながら進めていきたい。

- ・資料1の5ページに、「支え合いの重視」で「誰もが社会とのつながりを持ち、互いに支え合うことがますます重要になります」と記載されたが、人間関係をどのように構築していくのかについてのイメージが今一つよく分からない。美しい言葉はあるが、例えば無縁社会、ニート、とじこもり、孤独死といった、マイナスの言葉が全然書いていない。自立できる人も支えることで豊かに生きていけるし、自立できなくなったときも怖くないという、支える人が周囲にたくさんいると思える社会にしたい。マイナスの言葉も入れると、逆にそれを否定する形でイメージが鮮明になるのかもしれない。

- ・今の話のベースには現代の個人主義の課題があり、それを市民の支え合いでどう変えられるかは重要なテーマ。工夫をお願いしたい。

無縁社会という言葉をもっと詳しく説明し、対応策を記述することはできず、様々なところに記述しているが、例えば9ページでは「いきいき健康」という明るめのタイトルから、より共生が必要だということでタイトルを変えたり、この1行目で「孤立化を防ぐ地域のつながり」といった表現を入れたりして、そういった意味合いを多く含ませている。また、41ページについても、動向と課題の中に「地域とのつながりが希薄化し、孤立化する市民に対する支援が必要」といった記述を入れている。言葉的には十分でないところがあるかもしれないが、できるだけ無縁社会への対応が必要になっているというニュアンスをいろいろなところで出している。

- ・それと市民力が結びついていてほしい。いろいろなところに記述されていることは分かった。市民への説明のときに言葉を足してほしい。

例えばネット等を活用した防災防犯の対策など新たに市民との窓口を広げるといった、市民力につなげていくためのネットの活用等について、対応してきた部分もある。

今回の総合計画の基本は、市民力を重視しながら、学びと支え合いといったことを強く打ち出して、様々な分野でそういった学びと支え合いを基本に施策をつくっていくということで、その施策体系の中でどうしても分散させて書かざるを得ないところがある。ただ、市民から見て分かりやすくなっているかということについては、今後、市民への説明資料づくりの中で工夫させていただきたい。

- ・資料1の106ページの実効性を確保する仕組みについて非常に期待する。4に記述があるように市民協働で議論するときに、評価・点検と同時に基本目標や関連資料の設定そのものについても十分論議をできる仕組みで行ってほしい。

- ・本当は、共に生き自立できる社会を目指すのではなく、自立できなくなっても共に生き

られる社会を目指すべきと思う。

- ・資料1の56ページの の一番下の丸に「老朽建物などの更新を促進し」とあるが、老朽建物イコール歴史的建造物である。価値の有無の線引きが非常に難しい。こういう一文が解体の理由にされることを懸念する。国が古い建物を更新するよという方針を打ち出しつつあるので、取り下げるのは無理だとしても、「耐震調査を進める」などといった表現でおさめられないのかと思う。

老朽建物はいわゆる廃屋のような近隣からかなり言われているようなところを意識している。行政として何ができるかは難しい課題であり、歴史的な価値があることもあるかもしれないが、区民意見交換会等で不安だという意見が出されたことも意識し、記述している。運用では、ご指摘の点について留意が必要と思っている。

- ・資料1の57ページの の三つ目の丸で土地区画整理事業を進めて土地の高度利用を図るとあるが、土地区画整理事業が果たして全ての解決になるのか。ともすれば地域コミュニティを壊し、地域の歴史文化を壊し、自然環境を壊すものになりがちだということを配慮していただきたい。

- ・資料1の58ページで、利便性が低下して地域商業もだめになっていく中でどうするかということで郊外区域での記述があるが、必ずしも郊外に限らず都心や都心周辺がそうなっているのでは、むしろ全市的な問題になるだろうと思う。

土地区画整理等については、進める上では住民合意を始め、様々な課題があることもご指摘のとおりと認識しており、そういった点に留意しながら進めていきたい。

- ・このまちに特色を与えている景観重要建造物など保存したいと思うようなものをリストアップすると、大抵担保に入っていて守れないことが現実である。その都市の都市らしさをどんどん失っていくということもあって、建築物をただの物と見ないで文化財的に見ていく視点や、景観も大切といった視点について配慮いただけると良い。
- ・人口密度が低い自治体は人口がどんどん減少している一方、東京のようなところは人口密度が高くて増加している。その中で不思議なのは沖縄県で、人口密度が低いけど人口増加率は高い。恐らく子育てなどに昔風の何かがあって、そういう特異な現象が生じていると考えられるが、そういう話を何らかの形でうまく言葉にできないかと思っている。
- ・前から「ミュージアム構想」とか「ミュージアム都市」という言葉に違和感があると言っていたが、今回「アンパンマンこどもミュージアム」が基本計画に出ており、やはり今もめていることは事実なので、せめてこれについては言及してほしい。
- ・資料1の65ページのクリエイティブ産業の重要なものに建築建設業がある。これからは新しい建物をつくるより、既存のものをリノベーションしていく時代。それには極めてクリエイティブな要素を必要とされる。仙台には相当な就労の方々がおり、大学を始め高い知的な集積もあり、大きな付加価値の高い産業の一群となっているので、特にリノベーションを意識したものを位置付けることで検討してほしい。

(2) その他

- ・特に意見等はなかった。